

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
520			免疫反応における主な細胞間ネットワーク
521		分子レベルで見た免疫のしくみ	抗体分子の種類、構造、役割
522			MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割
523			T細胞による抗原の認識
524			抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構(遺伝子再構成)
525			免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカイン(列挙)とその作用
526	(2)免疫系の破綻・免疫系の応用	免疫系が関係する疾患	アレルギーの分類、担当細胞および反応機構
527			炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構
528			代表的な自己免疫疾患の特徴と成因
529			代表的な免疫不全症候群(列挙)、その特徴と成因
530		免疫応答のコントロール	臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)
531			細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わり
532			腫瘍排除に関与する免疫反応
533			代表的な免疫賦活療法
534		予防接種	予防接種の原理とワクチン
535			主なワクチン(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン)の基本的特徴
536			予防接種の種類と実施状況
537		免疫反応の利用	モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法
538			抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理
539			沈降・凝集反応を利用して抗原を検出できる
540			ELISA法、ウェスタンブロット法などを用いて抗原を検出・判定できる
541	(3)感染症にかかる	代表的な感染症	主なDNAウイルス(サイトメガロウイルス、EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス)が引き起こす代表的な疾患
542			主なRNAウイルス(ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス)が引き起こす代表的な疾患
543			レトロウイルス(HIV、HTLV)が引き起こす疾患
544			グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患
545			グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患
546			グラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患
547			グラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、ブルセラ菌、レジオネラ菌、インフルエンザ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患
548			グラム陰性スピリillum属病原菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患
549			抗酸菌(結核菌、非定型抗酸菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患
550			スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患
551			真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル)の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患
552			代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患
553			プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序
554		感染症の予防	院内感染の発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策
555	C11 健康	(1)栄養と健康	栄養素
556			栄養素(三大栄養素、ビタミン、ミネラル)(列挙)、それぞれの役割
557			各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセス
558			脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義
559			食品中のタンパク質の栄養的な価値(栄養価)
560			エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味
561			栄養素の栄養所要量の意義
562			日本における栄養摂取の現状と問題点
563			栄養素の過不足による主な疾病(列挙)
564		食品の品質と管理	食品が腐敗する機構
565			油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる
566			食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構
567			食品の変質を防ぐ方法(保存法)
568			食品成分由来の発がん物質(列挙)、その生成機構
569			代表的な食品添加物(用途別列挙)、それらの働き
570			食品添加物の法的規制と問題点
571			主な食品添加物の試験法を実施できる
572			代表的な保健機能食品(列挙)、その特徴
573			遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する
574		食中毒	食中毒の種類(列挙)、発生状況
575			代表的な細菌性・ウイルス性食中毒(列挙)、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法
576			食中毒の原因となる自然毒(列挙)、その原因物質、作用機構、症状の特徴
577			代表的なマイコトキシン(列挙)、それによる健康障害
578			化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染(具体例)、ヒトの健康に及ぼす影響
578	(2)社会と集団と健康	保健統計	集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義
579			人口静態と人口動態
580			国勢調査の目的と意義
581			死亡に関する様々な指標の定義と意義
582			人口の将来予測に必要な指標(列挙)、その意義
583		健康と疾病をめぐる日本の現状	死因別死亡率の変遷
584			日本における人口の推移と将来予測
585			高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
586		疫学	疾病の予防における疫学の役割
587			疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)
588			疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法
589			患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる
590			要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる
591			医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性
592			疫学データを解釈する上での注意点(列挙)
593	(3)疾病の予防	健康とは	健康と疾病の概念の変遷とその理由
594			世界保健機構(WHO)の役割
595		疾病の予防とは	疾病の一次、二次、三次予防
596			疾病の予防における予防接種の意義
597			新生児マススクリーニングの意義、代表的な検査項目(列挙)
598			疾病の予防における薬剤師の役割について討議する
599		感染症の現状とその予防	現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴
600			新興感染症および再興感染症(代表例列挙)
601			一、二、三類感染症および代表的な四類感染症(列挙)、分類の根拠
602			母子感染する疾患(列挙)、その予防対策
603			性行為感染症(列挙)、その予防対策と治療
604			予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類(列挙)、接種時期
605		生活習慣病とその予防	生活習慣病の種類とその動向
606			生活習慣病のリスク要因
607			食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わり
608		職業病とその予防	主な職業病(列挙)、その原因と症状
609	C12 環境	(1)化学物質の生体への影響	化学物質の代謝・代謝的活性化
610			代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセス
611			第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化
612			第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化
613		化学物質による発がん	発がん性物質などの代謝的活性化の機構(列挙)、その反応機構
614			変異原性試験(Ames試験など)の原理を説明し、実施できる
615			発がんのイニシエーションとプロモーション
616			代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子(列挙)、それらの異常とがん化との関連
617		化学物質の毒性	化学物質の毒性を評価するための主な試験法(列挙)
618			肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質(列挙)
619			重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴
620			重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子(具体例)
621			毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)など
622			化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)
623			有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法など)
624			環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する
625		化学物質による中毒と処置	代表的な中毒原因物質の解毒処置法
626			化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、緊急処置法、解毒法を検索することができる
627		電離放射線の生体への影響	人に影響を与える電離放射線の種類(列挙)
628			電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係(体外被曝と体内被曝を区別)
629			電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織(列挙)、その感受性の差異
630			電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)
631			電離放射線を防御する方法
632			電離放射線の医療への応用
633		非電離放射線の生体への影響	非電離放射線の種類(列挙)
634			紫外線の種類(列挙)、その特徴と生体に及ぼす影響
635			赤外線の種類(列挙)、その特徴と生体に及ぼす影響
636		(2)生活環境と健康	地球環境と生態系
637			地球環境の成り立ち
638			生態系の構成員(列挙)、その特徴と相互関係
639			人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する
640			地球規模の環境問題の成因、人に与える影響
641			食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮(具体例)
642			化学物質の環境内動態と人の健康への影響(例示)
643			環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)(列挙)、人の健康への影響
644		水環境	原水の種類(列挙)、特徴
645			水の浄化法
646			水の塩素処理の原理と問題点
647			水道水の水质基準の主な項目を列挙し、測定できる
648			下水処理および排水処理の主な方法
649			水質汚濁の水域ごとの主な指標(列挙)、その意味
650			DO、BOD、CODを測定できる
651			富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点(列挙)、対策
652		大気環境	空気の成分
653			主な大気汚染物質(列挙)、その推移と発生源
654			主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる
655			大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)
656		室内環境	室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる
657			室内環境と健康との関係
658			室内環境の保全のために配慮すべき事項
659			シックハウス症候群
660		廃棄物	廃棄物の種類(列挙)
661			廃棄物処理の問題点(列挙)、その対策

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
660			医療廃棄物を安全に廃棄・処理する
661			マニフェスト制度
662			PRTR法
663		環境保全と法的規制	典型七公害とその現状、および四大公害
664			環境基本法の理念
665			大気汚染を防止するための法規制
666			水質汚濁を防止するための法規制
667	C13 薬の効くプロセス	(1)薬の作用と生体内運命	薬の作用
668			薬物の用量と作用の関係
669			アゴニストとアンタゴニスト
670			薬物の作用するしくみ、受容体、酵素およびチャネル(例示)
671			代表的な薬物受容体(列挙)、刺激あるいは阻害された場合の生理反応
672			薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系(列挙)、活性化された場合の生理反応
673			薬効に個人差が生じる要因(列挙)
674			代表的な薬物相互作用の機序
675			薬物依存性(具体例)
676		薬の運命	薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わり
677			薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)(列挙)、その意義
678			経口投与された錠剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)
679			薬物の生体内分布における循環系の重要性
680			生体内の薬物の主要な排泄経路(例示)
681		薬の副作用	薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連
682			副作用と有害事象の違い
683		動物実験	動物実験における倫理について配慮する
684			代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる
685			実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる
686	(2)薬の効き方Ⅰ	中枢神経系に作用する薬	代表的な全身麻酔薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
687			代表的な催眠薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
688			代表的な鎮痛薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
689			代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
690			代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
691			中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる
692		自律神経系に作用する薬	交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
693			副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
694			神経筋に作用する代表的な薬物(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
695			自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる
696		知覚神経系・運動神経系に作用する薬	知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
697			運動神経系に作用する代表的な薬物(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
698			知覚神経・運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる
699		循環器系に作用する薬	代表的な抗不整脈薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
700			代表的な心不全治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
701			代表的な虚血性心疾患治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
702			代表的な高血圧治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
703		呼吸器系に作用する薬	代表的な呼吸興奮薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
704			代表的な鎮咳・去痰薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
705			代表的な気管支喘息治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
706		化学構造	代表的な薬物の基本構造
707	(3)薬の効き方Ⅱ	ホルモンと薬	ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用
708			代表的な糖質コルチコイド薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用
709			代表的な性ホルモン薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用
710		消化器系に作用する薬	代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
711			その他の消化性疾患に対する代表的治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
712			代表的な嘔吐薬と制吐薬(列挙)、作用機序および主な副作用
713			代表的な肝臓疾患治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
714			代表的な膵臓疾患治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
715		腎に作用する薬	利尿薬の作用機序別分類、臨床応用および主な副作用
716		血液・造血系に作用する薬	代表的な止血薬(列挙)、作用機序と主な副作用
717			代表的な抗血栓薬(列挙)、作用機序と主な副作用
718			代表的な造血薬(列挙)、作用機序と主な副作用
719		代謝系に作用する薬	代表的な糖尿病治療薬(列挙)、作用機序と主な副作用
720			代表的な高脂血症治療薬(列挙)、作用機序と主な副作用
721			代表的な高尿酸血症・痛風治療薬(列挙)、作用機序と主な副作用
722			カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
723		炎症・アレルギーと薬	代表的な炎症治療薬(列挙)、作用機序および主な副作用
724			慢性関節リウマチの代表的な治療薬(列挙)、作用機序および主な副作用
725			アレルギーの代表的な治療薬(列挙)、作用機序、臨床応用、および主な副作用
726		化学構造	代表的な薬物の基本構造
727	(4)薬物の臓器への到達と消失	吸収	薬物の主な吸収部位(列挙)
728			消化管の構造、機能と薬物吸収の関係
729			受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴
730			能動輸送の特徴

大項目	中項目	小項目	小項目の例示	
730			非経口投与後の部位別の薬物吸収	
731			薬物の吸収に影響する因子(列挙)	
732		分布	薬物が生体内に取り込まれた後に組織間で濃度差が生じる要因	
733			薬物の脳への移行の機構と血液-脳関門の意義	
734			薬物の胎児への移行の機構と血液-胎盤関門の意義	
735			薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)、組織への移行との関連性	
736			薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)	
737			分布容積が著しく大きい代表的な薬物(列挙)	
738			代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる	
739		代謝	薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位(列挙)	
740			薬物代謝が薬効に及ぼす影響	
741			薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素(列挙)	
742			シトクロムP-450の構造、性質、反応様式	
743			薬物の酸化反応(具体例)	
744			薬物の還元・加水分解、抱合(具体例)	
745			薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)	
746			初回通過効果	
747			肝および固有クリアランス	
748			排泄	腎における排泄機構
749		腎クリアランス		
750		糸球体ろ過速度		
751		胆汁中排泄		
752		腸肝循環、代表的な腸肝循環の薬物(列挙)		
753			唾液・乳汁中への排泄	
754			尿中排泄率の高い代表的な薬物(列挙)	
755		相互作用	薬物動態に起因する相互作用(代表例)、回避のための方法	
756			薬効に起因する相互作用(代表例)、回避のための方法	
757	(5)薬物動態の解析	薬動学	薬物動態に関わる代表的なパラメーター(列挙)	
758			薬物の生物学的利用能の意味とその計算法	
759			線形1コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる	
760			線形2コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる	
761			線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違い	
762			生物学的半減期を説明し、計算できる	
763			全身クリアランスについて説明し、計算できる	
764			非線形性の薬物動態(具体例)	
765			モデルによらない薬物動態の解析法(列挙)	
766			薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる	
767		点滴静注の血中濃度計算ができる		
768		連続投与における血中濃度計算ができる		
769		TDM(Therapeutic Drug Monitoring)	治療的薬物モニタリング(TDM)の意義	
770			TDMが必要とされる代表的な薬物(列挙)	
771			薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる	
772	至適血中濃度を維持するための投与計画、薬動学的パラメーター			
773	代表的な薬物についてモデルパラメータから投与計画をシミュレートできる			
774	C14 薬物治療	(1)体の変化を知る	症候	以下の症候が生じる原因とそれらを伴う代表的疾患
775				症候: 発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい
776			症候と臨床検査値	代表的な肝臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
777				代表的な腎臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
778				代表的な呼吸機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
779		代表的な心臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)		
780		代表的な血液および血液凝固検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)		
781		代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)		
782		感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動		
783		悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査(列挙)、推測される腫瘍部位(列挙)		
784		尿および糞便を用いた代表的な臨床検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)		
785		動脈血ガス分析の検査項目(列挙)、その検査値の臨床的意義		
786		代表的なバイタルサイン(列挙)		
787		(2)疾患と薬物治療(心臓疾患等)	薬物治療の位置づけ	代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療(外科手術、食事療法など)の位置づけ
788				適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる
789	心臓・血管系の疾患		心臓および血管系における代表的な疾患(列挙)	
790			不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	
791			心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	
792			高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	
793			虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	
794	疾患: 閉塞性動脈硬化症、心原性ショック			
795	血液・造血器の疾患		血液・造血器における代表的な疾患(列挙)	
796			貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	
797		白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意		
798		播種性血管内凝固症候群(DIC)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意		
799		疾患: 血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓		

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
800		消化器系疾患	消化器系の部位別(食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓)の代表的な疾患(列挙) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病
801			
802			
803			
804			
805			
806		総合演習	指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる
807	(3)疾患と薬物治療(腎臓疾患等)	腎臓・尿路の疾患	腎臓および尿路における代表的な疾患(列挙) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石
808			
809			
810		生殖器疾患	男性および女性生殖器に関する代表的な疾患(列挙) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜炎
811			
812		呼吸器・胸部の疾患	肺と気道に関する代表的な疾患(列挙) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌
813			
814			
815			
816			
817		内分泌系疾患	ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患(列挙) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病
818			
819		代謝性疾患	糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
820			
821		神経・筋の疾患	神経・筋に関する代表的な疾患(列挙) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆
822			
823			
824			
825			
826			
827			
828			
829			
830		総合演習	指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる
831			
832	(4)疾患と薬物治療(精神疾患等)	精神疾患	代表的な精神疾患(列挙) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症
833			
834			
835			
836		耳鼻咽喉の疾患	耳鼻咽喉に関する代表的な疾患(列挙) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎
837			
838		皮膚疾患	皮膚に関する代表的な疾患(列挙) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 蕁麻疹、薬疹、水痘症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症
839			
840		眼疾患	眼に関する代表的な疾患(列挙) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 結膜炎、網膜症
841			
842			
843			
844			
845			
846			
847		骨・関節の疾患	骨・関節に関する代表的な疾患(列挙) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 疾患: 変形性関節症、骨軟化症
848			
849			
850			
851		アレルギー・免疫疾患	代表的なアレルギー・免疫に関する疾患(列挙) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデスなど)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
852			
853			
854		移植医療	移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
855		緩和ケアと長期療養	癌性疼痛に対して使用される薬物(列挙)、使用上の注意 長期療養に付随する合併症(列挙)、その薬物治療
856			
857		総合演習	指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる
858			
859	(5)病原微生物・悪性新生物と戦う	感染症	主な感染症(列挙)、その病態と原因
860		抗菌薬	抗菌薬の作用点に基づく分類 代表的な抗菌薬の基本構造 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬の抗菌スペクトルに基づく分類、有効な感染症(列挙) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症(列挙) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症(列挙) アミノ配糖体系抗菌薬の抗菌スペクトルに基づく分類、有効な感染症(列挙) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症(列挙) サルファ薬(ST合剤を含む)の有効な感染症(列挙) 代表的な抗結核薬(列挙)、作用機序
861			
862			
863			
864			
865			
866			
867			
868			

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
869			細菌感染症に関する代表的な生物学的製剤(列挙)、その作用機序
870			代表的な抗菌薬の使用上の注意
871			特徴的な組織移行性を示す抗菌薬(列挙)
872		抗原虫・寄生虫薬	代表的な抗原虫・寄生虫薬(列挙)、作用機序および臨床応用
873		抗真菌薬	代表的な抗真菌薬(列挙)、作用機序および臨床応用
874		抗ウイルス薬	代表的な抗ウイルス薬(列挙)、作用機序および臨床応用
875			抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点(列挙)
876		抗菌薬の耐性と副作用	主要な化学療法薬の耐性獲得機構
877			主要な化学療法薬の主な副作用(列挙)、その症状
878		悪性腫瘍の病態と治療	悪性腫瘍の病態生理、症状、治療
879			悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけ
880			化学療法薬が有効な悪性腫瘍(治療例の列挙)
881		抗悪性腫瘍薬	代表的な抗悪性腫瘍薬(列挙)
882			代表的なアルキル化薬(列挙)、作用機序
883			代表的な代謝拮抗薬(列挙)、作用機序
884			代表的な抗腫瘍抗生物質(列挙)、作用機序
885			抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイド(列挙)、作用機序
886			抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬(列挙)、作用機序
887			代表的な白金錯体(列挙)、作用機序
888			代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造
889		抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用	主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構
890			主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用(列挙)、その症状
891			副作用軽減のための対処法
892	C15 薬物治療に役立つ情報	(1)医薬品情報	情報
893			医薬品として必須の情報(列挙)
894			医薬品情報に関わっている職種(列挙)とその役割
895			医薬品の開発過程で得られる情報の種類(列挙)
896			医薬品の市販後に得られる情報の種類(列挙)
897			医薬品情報に関する代表的な法制度
898		情報源	医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料
899			医薬品情報源としての代表的な二次資料、三次資料(列挙)とそれらの特徴
900			厚生労働省、製薬企業などの発行する資料(列挙)とそれらの特徴
901			医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけと用途
902			医薬品添付文書(医療用、一般用)に記載される項目(列挙)とその必要性
903			医薬品インタビューフォームの位置づけと用途
904			医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分け
905		収集・評価・加工・提供・管理	目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤差別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる
906			医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目(列挙)
907			医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる
908			医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する
909			主な医薬品情報の提供手段(列挙)、それらの特徴
910		データベース	代表的な医薬品情報データベース(列挙)、それらの特徴
911			医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる
912			インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を説明できる
913		EBM(Evidence-Based Medicine)	EBMの基本概念と有用性
914			EBM実践のプロセス
915			臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)の長所と短所
916			メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる
917			真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違い
918			臨床適用上の効果指標(オッズ比、必要治療数、相対危険度など)
919		総合演習	医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目(列挙)
920			医薬品に関する論文を評価・要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる
921	(2)患者情報	情報と情報源	薬物治療に必要な患者基本情報(列挙)
922			患者情報源の種類(列挙)、それぞれの違い
923		収集・評価・管理	問題志向型システム(POS)
924			薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる
925			患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる
926			得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する
927			SOAPなどの形式で患者記録を作成する
928			チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる
929			患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる
930	(3)テーラーメイド薬物治療を目指して	遺伝的薬因	薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的薬因(例示)
931			薬物動態に影響する代表的な遺伝的薬因(例示)
932			遺伝的薬因を考慮した薬物治療(例示)
933		年齢的要因	新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点
934			幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点
935			高齢者に対する薬物治療で注意すべき点
936		生理的要因	生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点
937			授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点
938			栄養状態の異なる患者(肥満など)に対する薬物治療で注意すべき点
939		合併症	腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点
940			肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点
941			心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点
942		投与計画	患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与計画ができる
943			ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用
			薬動学的パラメーターを用いて投与計画ができる